



第42回日本美容皮膚科学会総会・学術大会
ランチョンセミナー16

日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

多汗症・ 酒さの 治療最前線

2024年
9月1日(日) 12:05▶13:05

第7会場 名古屋国際会議場 2号館 2階
会議室224

〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-1

講演1

多汗症

12:05▶12:35

汗ゼロは**多汗症**の治療ゴール？
～汗の悩みを相談してもらえるクリニックへ～

座長 玉田皮膚科 院長 玉田 康彦 先生

演者 ごとう皮膚科クリニック 院長 後藤 康文 先生

講演2

酒さ

12:35▶13:05

今こそ！
明日から始める**酒さ**の診断と治療

座長 Aloop Clinic&Lab 院長 山崎 研志 先生

演者 東京大学医学部附属病院 皮膚科 助教 尾松 淳 先生

共催：第42回日本美容皮膚科学会総会・学術大会／
マルホ株式会社

講演1
多汗症

汗ゼロは多汗症の治療ゴール？ ～汗の悩みを相談してもらえるクリニックへ～



演者 ごとう皮膚科クリニック 院長 後藤 康文 先生

2020年に外用抗コリン薬が発売されて以降、多汗症患者さんの受診者数は年々増加しています。2023年には原発性局所多汗症診療ガイドラインが改訂され、治療選択肢が広がったことで、より多くの患者さんに適切な治療を届けられるようになりました。しかしながら、多汗症患者さんは再診するまでの期間が非常に長い、そんな印象はありませんか？もしかすると、患者さんは誤った治療ゴールの設定や薬剤の使い方をしている可能性があります。「汗ゼロを目指す」といった高すぎるゴール設定や、「困ったときだけ、短期間使用する」など、患者さんは過度な期待を抱きながら、治療をしているかもしれません。さらに、子どもの汗の悩みに対してクリニックでできることについても考えてみました。本講演では、患者さんが考えるなりたい姿に近づけるために、当院の患者指導の内容やラピフォートワイプの有用性についてご紹介します。

ご略歴

1997年	信州大学 卒業	2003年	信州大学病院
1997年	信州大学病院	2005年	John Wayne Cancer Institute
1999年	飯山赤十字病院	2007年	信州大学病院
2000年	慶應大学医学部先端医科学研究所	2011年	ごとう皮膚科クリニック(愛知県あま市) 開院

講演2
酒さ

今こそ！ 明日から始める酒さの診断と治療



演者 東京大学医学部附属病院 皮膚科 助教 尾松 淳 先生

酒さは30-50歳代に好発する慢性炎症性の皮膚疾患であり、顔面の潮紅、持続性紅斑、毛細血管拡張、丘疹・膿疱を主な特徴とし、病態には、遺伝的背景とDemodexの異常増殖、紫外線やストレスなどの環境要因の相互作用によって引き起こされる。欧米での有病率は高いが、日本ではまだ疾患概念が浸透していないためか、有病率が低く見積もられている可能性がある。欧米では比較的よくみられる疾患だが、日本における酒さ・酒さ様皮膚炎の有病率はアジア人における有病率から推計すると低い。アトピー性皮膚炎、尋常性ざ瘡、脂漏性皮膚炎、接触皮膚炎など様々な疾患に類似し、時には合併することで診断が難しくなるため、実際にはより多くの患者が診断されずに悩んでいる可能性がある。従来の酒さの分類は、1～4型という4分類であったが、近年、欧米では紅斑や毛細血管拡張、丘疹・膿疱といった臨床的特徴から分類し、それらに適した治療が提唱されている。2022年にロゼックスゲルが酒さに対する保険適用を取得し、日本も世界標準の治療に近づいてきた。しかし、適切な診断にはまだ課題があると考えられる。酒さの治療は他疾患と一線を画すため、酒さの診療においては適切な診断を行うことが最も重要な第一歩である。本講演では、明日からの診療に役立つ酒さの診断と治療についてのtipsを紹介する。

ご略歴

2011年	筑波大学医学部 卒業	2016年	東京大学医学部附属病院 皮膚科 助教
2011年	東京大学医学部附属病院 初期臨床研修	2017年	東京大学医学部附属病院 皮膚科 病院診療医
2013年	都立駒込病院 皮膚腫瘍科	2021年	東京大学大学院 博士課程医学系研究科 外科学専攻修了、医学博士
2014年	同愛記念病院 皮膚科	2021年	東京大学医学部附属病院 皮膚科 助教

LINE公式アカウント

マルホLink®



知りたい情報が
すぐに見つかる



右の二次元コードをスキャンして
今すぐ友だち登録！

